

知事記者会見の概要

日 時：令和3年7月28日(水) 10:00～10:34

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 副知事の不在について
- (2) 新型コロナウイルスのワクチン接種について

フリー質問

- (1) 令和2年7月豪雨災害について
- (2) 代表質問に関連して
- (3) 東京2020オリンピックについて
- (4) 災害時における避難所の新型コロナウイルス感染症対策について

<幹事社：毎日・産経・YBC>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。まず、台風についてであります。台風第8号ですが、本日、午前6時前に宮城県の石巻市付近に上陸して、北北西に進んでおります。

台風の接近に伴い、県内では、警報級の大雨となる可能性がありますので、26日に、庁内全部局・総合支庁、山形地方気象台による警戒対策連絡会議を開催しまして、台風の今後の見通しについての情報共有や各部局における防災対策の確認を行うとともに、警戒にあたっているところであります。

これまで、JRの計画運休などにより、交通への影響が生じましたが、現在のところ、県内で大きな被害の報告は入っておりません。山形地方気象台によりますと、県内では、本日夜遅くにかけて大雨になる所がある見込みということです。

県民の皆様には、大雨による土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒するとともに、竜巻などの激しい突風や落雷、ひょうに注意してください。また、庄内の海上では強風に注意してください。なお、雨が弱まったり、止んだ後も、河川や用水路などの増水が続く場合がありますので、様子を見に行くといった行動は決してなさらないようお願いをいたします。

次はオリンピックであります。東京2020オリンピックは、日本チームのメダルラッシュに沸いておりますが、本県出身の5名の選手たちもオリンピックの大舞台で思いっきり躍動しております。

そうした中、一昨日、日本卓球界オリンピック史上初となる金メダルを水谷・伊藤のペアが獲得しました。そして、そのコーチとして、二人を支え続けた田勢邦史（たせくにひと）さんは本県長井市の出身と聞いております。本県出身者が、このような快挙を下支えしていたということを知りまして、本当に嬉しく喜ばしく思っているところであります。

これからもオリンピックは続きます。本県出身選手の試合が続きます。県民の皆さん、一丸となって応援してまいりましょう。

そして新型コロナであります。昨日、6名の新規感染者が確認されましたが、そのうちの4名は、首都圏との往来が確認されております。

また、新たに、L452R変異株が3件確認されました。デルタ株かどうかにつきましては、現在解析中であります。判明次第、皆様にお知らせをいたします。

東京都では、1日あたり過去最多となる2,800人を超える新規感染者数が確認されるなど、首都圏を中心に、感染の再拡大が続いている状況にありますので、旅行や帰省、仕事も含め、県境をまたぐ不要不急の移動は、慎重に判断するようお願いいたします。

特に、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の対象地域との不要不急の往来は控えてくださるようお願いいたします。私からは以上です。

☆代表質問

記者

産経新聞の柏崎と申します。前回もお尋ねしたんですけれども、副知事問題についてまたお尋ねしたいと思います。副知事不在になって今月でだいたい5か月になろうとしてるんですけれども、知事は前回の記者会見で、お見守りください、というのをおっしゃっていましたが、その後、知事のほうから何らかの動きというか、アクションなどされたんでしょうか。

知事

はい。そうですね、非常にこう微妙な問題でありますので、具体的にはなかなかお答えしにくいところがございます。現在進行形ということで、コメントは差し控えさせていただきたいと思います。

記者

現在までのそういうところなんですが、今後はどうされていきますか。この7月8月、もう9月入りますと議会になってしまいますので。8月はお盆もありますし。

知事

はい。今、現在進行形と申し上げましたので、本当に微妙に動きがあるというようなことで、それ以上はちょっと申し上げられないところであります。

記者

それに関連しましてもう1つお尋ねしたいんですけども、現在、前の副知事は特命補佐という形になっていますけども、仮にその別の方が副知事になった場合に、その特命補佐という職は無くなるんでしょうか。

知事

いえ、とにかくコロナ克服しなければいけないと、そして経済再生ということが一応メインになっておりますので、それはまた別物だというふうに私は考えているところです。

記者

どんなことを主にやってらっしゃるんでしょうか。具体的には。

知事

そうですね、今申し上げましたが、新型コロナ対策、経済再生、これは大体ほとんどの分野に及ぶものでありますけども、そこを中心に、いろいろ参考意見、議論に入ってもらったり、調整をやってもらったりということをしております。

記者

わかりました。別の質問をいたします。コロナ関係なんですけれども、山形県はワクチン接種では、全国でもトップを走ってらっしゃって、すごく接種率が高くて非常にいい状況だと思っているんですけども、仮にその集団免疫っていうのはよく言われていまして、識者によると6割か7割くらいが接種すれば集団免疫はできるんじゃないかって言われていますけども、それで県内の高齢者もだいたい7月末で接種が終わりという予定でございますね。ワクチンの供給量もありますけども見通しとしまして、山形県内のワクチン接種率が6割を超えるのはいつ頃になるのかと、もし分かればありがたいんですけども。

知事

はい、わかりました。では、お答えします。市町村で接種されているファイザー社のワクチンの接種間隔は、3週間ですが、本県の7月12日における65歳以上の方の1回目接種率は、公表値で約84%となっています。それで、7月末における65歳以上の方の2回目接種率は、集計上、同等の割合が見込まれております。なお、医療機関等における接種後のデータ処理には、数日を要するとみられますので、これを加味して考えますと、7月末における実質的な65歳以上の方の2回目接種率は、9割程度に達するものと見込まれております。

それから、全年代のワクチン接種につきましても、全国高位の本当にトップレベルのペースで進んでいるところであります。ちなみに、7月26日現在で、全年代の1回目接種が全国3位、2回目接種は全国1位となっております。これまでと同程度のペースで進むことが前提とはなりますが、2回目接種につきましては、9月中旬に約6割に達するというふうに見込んでおります。こうした円滑な接種は、携わっている関係の皆様方のご努力、ご協力の賜物と考えており、改めて感謝を申し上げます。

2回目のワクチン接種が進んだ場合のイベントや飲食店などでの行動制限の緩和につきましては、記者さんの質問の集団免疫ということは、どういうふうを採用していくのかということと関連するかと思えますけど、そういった規制の緩和につきましては、今後、政府の新型コロナ対策分科会等で議論されると報道で承知をしております。県としましては、まずはこうした政府における専門家の方々の議論を注視してまいりたい、更に、県内の医療専門家の方々のご意見も伺ってまいりたいと考えているところです。

記者

9月中旬ごろにだいたい6割達するということですか。

知事

はい、9月中旬に約6割に達すると見込んでおります。ワクチンがちゃんとこれまでのようになれば。

記者

そうならないとわかりませんが、現在の、ちょっとお話にもありましたが、山形県のコロナに対する政策も変わっていかうかと思うんですが、それについては今のところまだ医療関係者の判断を待ちたいということですね。

知事

はい、まずは政府の新型コロナ対策分科会というのがありますので、その専門家の方々のご意見、更に県内の医療専門家の方々のご意見もお聞きして、そしてそれを参考にして考えてまいりたいと思っております。

記者

わかりました。ありがとうございました。

☆フリー質問

記者

NHKの藤井です。まず最上川豪雨から1年になりますけども、改めて防災対策、今後力を入れていきたい部分とか課題とかそういったものがあれば、台風も東北に上陸して、災害頻発してますけども、最上川治水対策に限らず、そのあたり、防災対策全般について力を入れたいところとかあればお伺いします。

知事

はい、中長期的には最上川の流域治水、あれはしっかりと国交省と検討、市町村と連携をとって進めてまいりたいと思っております。あと、ただその流域治水10年かかるというような取り組みでありますので、その間にも台風がきたり、豪雨がきたりということがあると思いますので、やっぱりなんと言っても県民の皆さんの命が一番大事でありますので、しっかりと気象情報を把握して共有して、そして避難していただく、やっぱりそこが一番、目下のところは、大事なのかなと思っております。

記者

避難は大事という点で言えば、前回、土砂災害の警戒情報、空振りを恐れず避難情報、避難指示を出してくださいとありましたけれども、通知で。そういった部分の住民への周知とか、避難指示の呼びかけとか、そういったところで何か考えているところありますでしょうか。

知事

はい、そうですね。早め早めの避難指示であったり、実際に避難行動をとっていただく

ということを私は申し上げております。市町村長の皆さんもやはりそういうお気持ちになっていると思われまふ。昨日今日明日とやはり、台風第8号が来るというようなことは予想できたわけでありまふので、県もそうですけれども、市町村のほうでも「避難所開設しようかと思っています」とか、そういう声も聞かれましたので、やはり早め早めの、指示や行動というものを、しっかりこれからも取り組んでいただくということが大事なのかなと思っております。

記者

インフラの対策は、限界があるというか時間がかかるので。ソフトの対策というところですかね。

知事

応急的な措置のところはもうやっておりますし、できるところからどんと進めてまいります。ですがやはり、流域治水という考え方でありまふので、ハードのところは時間がかかるところも、堤防を作ったり、本川だけでなく支川の県管理河川の堤防もありまふので、それはやっぱり何年単位でかかりますので、それをしっかり行いながらソフト対策のほうを、できる限り早め早めに避難していただくという、ソフト対策のほうを市町村と連携して行っていきたく思っています。

記者

わかりました。あと、コロナ対策なんですけれども、集団免疫という意味では結構先行してうまくいっているかと思うのですけれども、指摘されているのが、若い女性の間で様子を見たいという割合が多いと、ワクチン接種についてですね、そういった調査結果も出ていますが、その辺、若者のワクチン接種、東京都内でも若者世代の感染が広がっているというのが課題になってはいますけれども、それに向けては県としてはどのようなことを考えていますか。

知事

そうですね。具体的などころまではちょっと聞いておりませんけれども、確かに首都圏に限っては若い方々が、あまり乗り気じゃないというようなことを報道で承知しております。本県としても同じような傾向がみられるのかどうか、そこをしっかりと把握して、できる限り私としましては、できる限り希望していただいて、強制というわけではありまふので、ただやはり本県の場合は、3世代同居も日本一率が高くなっておりますので、高齢者も一緒に暮らしている場合がございます。やはり感染するということもありますので、ワクチン接種もどんと進めてはおりますけれども、デルタ株なんかも出てきていますから、若い方々も重症化するというようなことも聞いておりますので、できる限り、若い方々にも接種を

呼びかけて、そして実際に接種をしていただくということが大事かなと思っています。

どういうふうなこと、具体的なことを考えているかと言われると、まだ具体的なことはちょっと担当の話を聞いておりませんが、やはり、働いている年代だと思われまので、経済界の方々とお話をしたり、あるいは学生さんですね。大変活動的でありますから、学生さんにもしっかりと接種に臨んでもらうというようなことを、できる限り県としてもお勧めしていきたいかなと思っています。

記者

わかりました。最後に副知事の話ですけれども、前々々回かの記者会見で、私「若松さん本人が説明したらどうですか」ということを質問して、「本人に聞いてみたい」と知事おっしゃっていましたがけれども、「本人にそれについてはちょっと聞いてみたいけれども」とおっしゃっていましたが、その後若松さんに聞いてみていかがでしたか。

知事

いや、「本人に聞いてみたい」と言ったことはないと思うのですけれども。

記者

いや、「ご本人が説明されるのも、今、要職に就いているわけですから、そういったことも考えられるんじゃないでしょうか」と言ったら、「本人には言ってみますけれども」と知事おっしゃっていましたが、それから言っていないのですか。

知事

そうですね。そういった、私としては「いろいろ相手もあることであって、首長さんたちが記者会見していない中で、どういうものでしょうかね」と。「私としては、そのようなことは必要ないのではないか」というふうなことを申し上げた覚えがあるのですけれども。

記者

知事そうおっしゃったのは、私も記憶していますし、その後「ご本人にも聞いてみたい」ということもおっしゃっていましたが、そこは聞いていないのですね。

知事

聞いたというか、「首長さんたちもそういうことをしていないので」と。「そういった質問がありました」というようなことはお伝えしました。

記者

それで反応はどうでしたか。

知事

特にそれについて、イエスとかノーとかいうようなことではなかったと思っています。私がお答えしたので、同じようなお考えなのだと思います。

記者

わかりました。それで、現在進行形とはおっしゃっていたのですけれども、9月議会までにはどうにかしたいとか、そういった目処は考えていらっしゃるのですか。

知事

もちろん、私的には、遅くともやはりそういうことは進めたいというふうに思っています。

記者

遅くとも9月議会までは、そういった副知事人事案について出したいということですか。

知事

そうですね。いつまでもいつまでもというわけにはいきませんので。

記者

わかりました。

記者

さくらんぼテレビの白田です。今の副知事の関連なのですけれども、微妙に動きがあるということでしたが、自民党県連の新たな役員の方々と意見交換をしたいと、知事おっしゃっていましたけれども、この微妙な動きの中にはその意見交換もあったということでしょうか。

知事

いや、まだ過去形ではありません。そのくらいのコメントでちょっと勘弁してもらいたいと思います。

記者

あったかどうかは。

知事

過去形ではないです。

記者

わかりました。すいません、ワクチン接種なのですけれども、接種率が高いという順位が出るとその理由については、知事おっしゃっていましたが、現場の皆さんの努力以外で何かこの順位が高い理由というのは知事はどういうふうに把握されていますか。

知事

そうですね。やはり一番最初に浮かぶのは県民性だと思っています。県外から知事室にお客さんがみえるとき、ありますけれども、その時にも「山形県、東北でダントツ高いですね」とお褒めの言葉を頂戴しましたが、「山形県民は真面目です」というふうに私は答えております。やはりそれが一番大きいのかなと思っています。それからですね、医療界の方々もそうだし、県民の皆さんもそうだし、市町村の皆さんもそうだし、基本的に流れているのは山形県民の真面目というか実直と言いますか、そういう気質だと思っています。しっかりと取り組むということで、このように高い位置、ポジションを維持しているのかなと思っています。

記者

最後にオリンピックなのですけれども、知事お忙しいとは思いますが、何かこの競技は全部観て熱くなったとか、この瞬間には心が動いたとか、何かあれば教えてください。

知事

そうですね。なんと私が最初たまたま4連休のうちで、テレビであるいはラジオでという、一番連休中に多かったのは、仕事をしながら片付けをしながらラジオで聴くという場面がとて多かったのですが、たまたまテレビで観ることがあった、最初に観られたのが女子柔道で、沖縄出身の渡名喜風南（となきふうな）さんという方いらっしゃいましたよね。金メダルではなくて銀メダルだったのですが、コソボの選手と闘って決勝戦で負けちゃったのですが、本当に残念そうな表情でありましたけれども、本当に一生懸命闘っておられたので、やっぱり観ているほうも熱くなると言いますか、活力をもらえるなと思いました。渡名喜風南さんでしたか、そういうお名前かなと思うのですが、珍しい名前だなと思いつつ。最初に観たのが、渡名喜選手の銀メダルだったのでありますけれども。

でも、開会式、私、バッチリ205カ国が、参加しての開会式、あれはもうじっとテレビにかじりついて観ておりました。本当に平和の祭典だなというふうに思いながら拝見しました。その後はそうですね、これもたまたまありますけれども、13歳の西矢椛（にしやもみじ）選手ですかね、それもテレビで観ることができまして、いやすごいなと思いました。

本当に観たかったのは卓球の混合ダブルスも、途中までラジオを聴いていて、3セット対3セットの最後のセットの時にずっと最後のセットまで勝ち進んでいたのですが、最

後の最後のところがちょっと優勝してほしいがために恐くなって、ラジオを切っちゃったというのがあって、終わった頃だなどと思ってちょっとつけて、優勝したということでほっとしたというのがありましたね。本当にはじけるような喜び方と言いますか、選手の皆さんのはじけるような喜び方とか、それからはにかむような表情とか、いろいろな喜び方があってドラマがあって、本当に残念な方もおられましたし、そういったアスリートの皆さんの、映像を見せていただくだけでも本当に元気と活力をいただけるなというふうに思いました。日本中の、世界中の皆さんが、コロナ禍ではありますけれども、毎日毎日元気をもらっているのではないかなというふうに思っています。

記者

そんな中で、昨日東京都の感染者が3千人近くということで、オリンピック中止などという声も上がっているようですけれども、吉村知事はこの件については、どのような考えをお持ちでしょうか。

知事

そうですね。実際もう始まっておりますので、止めるというのは難しいのではないかなと思いますね。本当に新型コロナという状況の中ではありますけれども、今こここまで来た以上はやはりしっかりと平和のスポーツの祭典は、きちっとやりきってもらって、そしてまたコロナ克服ということで、現在もやらなくてはいけないのですけれども、なお一層力を入れていただきたいと思うし、私どもも一緒になってコロナを収束させていければと思っています。

記者

朝日新聞の鷺田と申します。先ほどの副知事の話にたびたび戻るのですけれども、いつまでもこの状態ではいけない、ということでおっしゃっていましたが、遅くとも9月議会には人事案は出したいという、今、心づもりでいらっしゃるという認識でいいのでしょうか。

知事

はい、そうですね。

記者

わかりました。あと自民党との意見交換はずっと重ねたいということでしたけれども、過去形ではないということですが、何か日程を調整しているとか、今そういったことは。

知事

とても、すいません、具体的なことまではちょっとコメントを差し控えさせていただきますと思います。

記者

わかりました。あと、もう1点がコロナのワクチンの接種のことなのですがけれども、9月中旬には6割に達する見込み、このままちゃんとワクチン供給が順調にいけば、ということでしたけれども、これは6割というのは2回の接種が6割に達するという認識ですか。

知事

そうですね。確か2回目であったと思います。

記者

全世代において、2回目の接種が6割に達するということですね。6割に達するというのは、これは要は集団免疫の1つの目安だというふうに知事は考えているということですか。この6割という数字は何なのか教えてください。

知事

そういうふうに使われていたことがありました。有識者の言葉で聞いたことがあるのですがけれども、ただ最近、尾身会長は「なかなか6割接種でも感染が下火にならない」とおっしゃっていますし、やっぱりデルタ株というようなことへの置き換わりが進むと、やはりまた状況が変わってくるのかなと思っておりますけれども、一応の従前の目安として6割というふうに申し上げました。

記者

では、定説であるとかというわけでもなく、また知事がいろいろな専門家の話から聞いた中での1つの目安、政治的な判断での目安というわけではないということですか。

知事

そうですね。従前の目安であったかと思っておりますけれども、またそれも状況が変わりつつあるのかなと思いますので、またいろいろと情報を収集して、専門家のご意見も聞いてみたいと思っています。

記者

毎日新聞の小寺です。よろしく申し上げます。先ほどの防災対策に関連してなのですが、県ではコロナ禍の避難所運営についてガイドラインを作成していらっしゃいますが、現状で十分というふうに感じていらっしゃいますか。もし、課題があれば、最もこれが、というのがあれば教えてください。

知事

そうですね。どのようなことにしても私は十分ということはなかなか難しいのかなと思っています。やっぱり完璧ということは何事も、私の考え方でありますけれども、常にその上を目指さなければいけないということがありますので、これで十分だというようなことではないだろうと思っています。コロナのお話でありますけれども、感染症対策もそうだし、あと、避難者の方々には男性も女性もいらっしゃいますので、避難所運営のところが、男性と女性、できれば両方の責任者がいてくれるのが望ましいなと思っていますので、そういうことを考えると、まだかなという気がします。

記者

感染症対策を講じた場合は、指定避難所の人数というのはどの位に減るのですか。

知事

指定収容所の避難人数ですか。

記者

指定避難所の収容人数です。感染症対策を講じたら、もちろんやっぱり少なくなるのじゃないかなと思うのですけど。

知事

やっぱり従前の倍くらいの避難所が必要になるのではないかと、担当から聞いたことはあります。

記者

知事、2週間位前の日程で、企業と避難所の施設の提供について協定を結んでいらっしゃるのを拝見したのですけれども、今現在で指定避難所以外の施設確保というのはどの位進んでいるのですか。先ほど、その倍くらい必要になるとおっしゃっていましたが。

知事

どの位まで進んでいるかはちょっと私、まだ聞いておりませんので。

広報広聴推進課長

もし、よろしければ、この後の担当のほうから確認していただいでよろしいでしょうか。

記者

ありがとうございます。